



# 公開講座レター

No.5



今年度から、公開講座の取り組みを広く知っていただくため、実施した公開講座の様子や、参加者の声をお届けする「公開講座レター」を発行しています。

今回は、9月から10月にかけて実施された公開講座『「Life Drawing 人体素描」コース:1部、2部』と「世界の文学、日本の文学」の様子をお届けします。

講座名

「Life Drawing 人体素描」コース：1部、2部

開催日

1部：10月6日（土）、7日（日）

2部：9月29日（土）、30日（日）

（1部が当初予定の開講日から変更となったため、2部を先行して開講）

10：00～12：00、13：00～16：00

講師

人間発達文化学類准教授 渡邊 晃一

## 講座の概要

実際に人体モデルを用いて、男女の身体構造の比較、骨格の違い、筋肉や脂肪の付き方等について学び、それらをふまえてデッサンを行い、各々の作品を仕上げました。

会場では時間の経過とともに徐々に参加者の緊張もほぐれ、真剣ながらも和やかな雰囲気で作りが行われました。最後にはそれぞれの作品を並べて渡邊先生から講評をいただきました。

## 各回の内容

1日目 身体の構造（骨格、筋肉）について

2日目 デッサン

## 参加者の声

・今まで絵を描いていて、骨格など考えずに描いていたが、これからはもっといい絵が描けるようになると思います。

・初めての参加で大変勉強になりました。

・裸体を描かせてもらうのは初めてだったので、驚きながらも感動しました。

・自由でなごやかな雰囲気の中で勉強でき、良かったと思います。忘れてしまう事の多い年齢になり、この講座を基礎として絵を描ける事はうれしい限りです。

・男女のモデルを並べて描くチャンスに恵まれ、勉強になりました。時間が短か過ぎた感じがしましたが、また新しいことを幾つか習得出来ました。

・今回で3回目の受講、初日は前回の事柄を思い出しながら、忘れてしまったことを反省しつつ、新たにさらに発見して、学ぶ楽しみを感じます。ありがとうございました。

・先生の教えてくださることが頭では解っているつもりでも、描くと全然別になってしまう。下手なのは何をやってもダメですが、先生のお話が楽しく、優しい渡邊先生に感謝です。

## 講座の様子



**講座名**

世界の文学、日本の文学

**開催日**

10月6日、13日、20日、27日（土） 14:00~16:00

**講師**

福島大学名誉教授	九頭見 和夫
山形大学名誉教授	早川 正信
福島大学名誉教授	磯崎 康彦
ヘブライ文学研究所代表	梶山 義次

**講座の概要**

本講座は4人の先生に各1回の講義をご担当いただき、4週にわたって行っている講座です。今回は、時代を超えて日本人に深く感動を与えてきた文学作品の中からロビンソン・クルーソーやホメロス物語などが取り上げられました。また、九頭見先生の講座は東京電力の原発事故を受け、当初予定から内容を変更しての講義となりましたが、原爆や原発についての作品に興味を持たれた方も多いようでした。

**各回の内容**

- 10/6 『ロビンソン・クルーソー』の翻訳と変遷（磯崎先生）  
作品の歴史的背景、当時の技法の美術的見解、変遷などを解説
- 10/13 童話にみられる下降のイメージ（早川先生）  
日本文学中の童話の位置づけなど
- 10/20 井伏鱒二の小説『黒い雨』と原発事故（九頭見先生）  
原爆や原発が起こした事故、悲劇を言葉に残した作家と作品を紹介
- 10/27 ホメロス物語 —『イーリアス』をめぐる—（梶山先生）  
ホメロスとその作品について

**講座の様子****参加者の声**

- ・未知の世界を知ることが出来て良かった。
- ・初めての受講で難しいと思っておりましたが、講義の内容が分かり易かったので、とても勉強になりました。初日にプリントがなかったのは少々残念だった。
- ・各先生の講座を4日間という短い日数でしか受講できないのは残念です。どの講座ももっとゆっくりお聞きしたかったです。特に原発の地に生きることを余儀なくされた私たち県民にとって原発は永遠のテーマと思われるので、今回

聞いて良かった。

・早川先生の「桃太郎」に関する話しに、たいへん興味を覚えました。浦島太郎、花咲かじいさん等のおとぎ話の解説（海外のおとぎ話など）をお願いしたい。

・たいへん良い機会を与えて頂き勉強になり、さらに学習意欲がわきました。ありがとうございました。